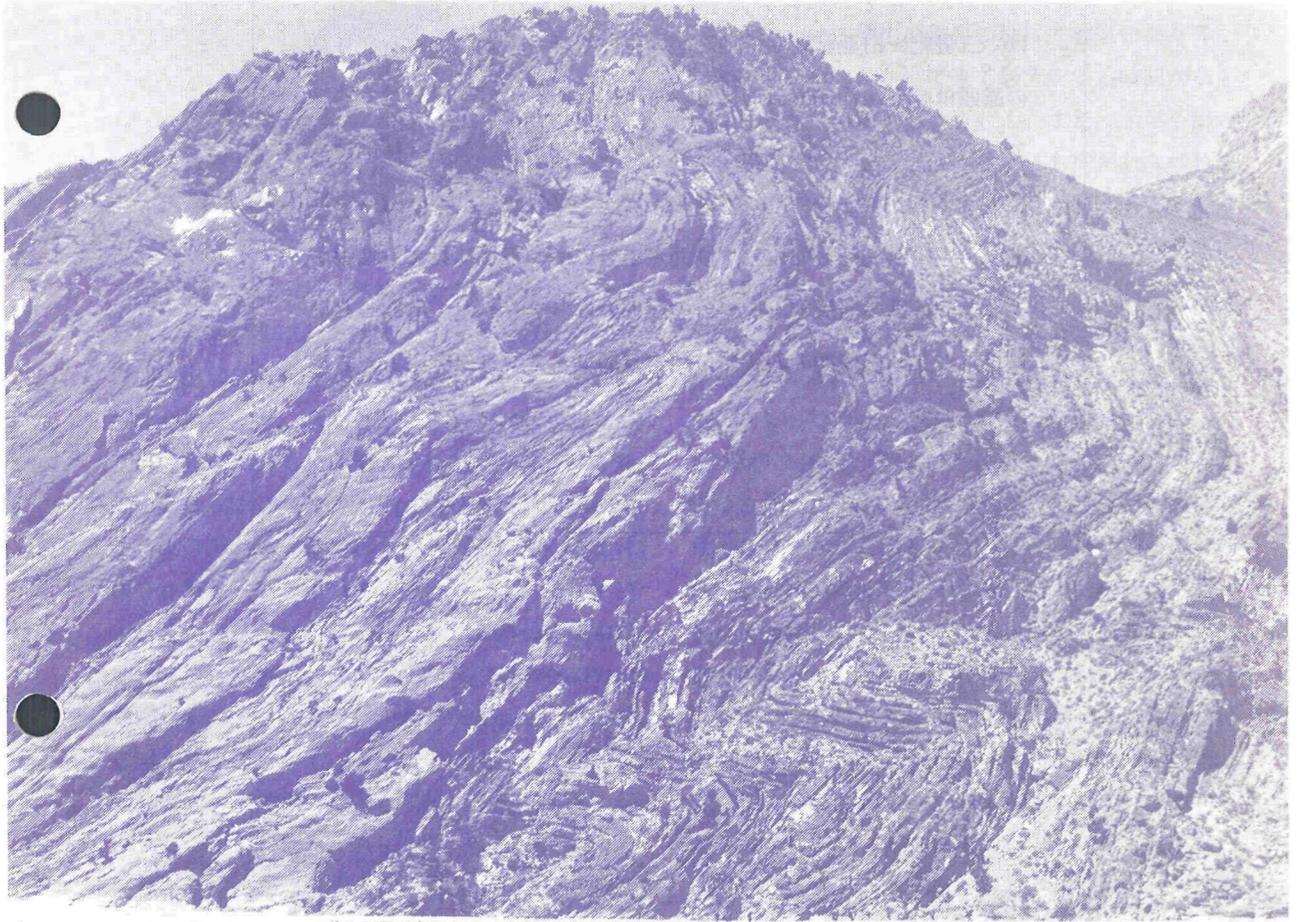


東京大学理学部

廣報



表紙の説明

「テチス海堆積物」の大露頭

ネパール中北部タコラ地域には中生界テチス海堆積物が広く分布している。特にカリガンダキ川の上流、ジョムソン～カクベニ間には、三畳紀～白亜紀前期の地層が大露頭を作って好露出する。写真の露頭は高さが約400 mである。右下に河原を歩く人が小さく写っている。インド亜大陸とユーラシアの衝突により、テチス海堆積物はスラストシートを作り、褶曲し、大きく隆起した。この露頭では地層の上下が逆転しており、画面左半分のやや塊状に見える地層がジュラ紀前期の石灰岩、右半分の層理のはっきりした、褶曲した地層は、ジュラ紀中期の石灰岩／泥岩互層である。（研究ニュース参照）

松本 良（地質）